



浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.183
2024.3.4

発行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長 安藤隆敏
h_unesco_koho@yahoo.co.jp
編集(広報委員会)阿部行俊

第14回 未来遺産「私のまちのたからもの」展 100年後まで残したい ふるさとの文化や自然

- ◆ 作品展 令和6年1月10日(水)～15日(月) 於：遠鉄百貨店ギャラリーロゼ
- ◆ 表彰式 令和6年1月14日(日) 於：遠鉄百貨店えんてつホール

浜松市長賞

「輝け! ひまわり」

浜松市立佐鳴台中学校2年 佐藤千都さん



黄色は元気を与えてくれる色だと思います。ピカピカ輝くひまわりと一緒に太陽を浴びると、生きていることの幸せで心が満たされます。展望台からの眺めも最高で、とてもワクワクします。ひまわりの力強さと豊かさを表すために、たくさんの色を重ねました。ずっとこの景色が続いてほしいです。

「守っているクスノキ」

浜松市立気賀小学校6年 鶴見琥珀さん



細江神社の境内には、たくさんの木が生い茂っています。その中で、このクスノキは樹齢500年以上の木だそうです。このクスノキは、ぼくの祖父母のまたその祖父母のずっと前から、この場所にあると思うとなんだか不思議な感じがします。これからも、ずっとずっとぼくたちを見守ってほしいと思います。

【主催者挨拶】

「心を強く豊かにする 地域の魅力」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

「私のまちのたからもの」展は、地域の魅力に目を向け、長い歴史と伝統のもとで豊かに培われた地域の文化や自然遺産を伝えるための活動としています。ふるさとの良さを知ることが平和を大切に作る心に繋がります。

年明けの元日、能登半島では地震という自然の力によって、多くの命が奪われ、故郷の破壊が起きました。自然の力の前では為す術はないといった感じですが、故郷の復興が期待されます。

人間の行為が故郷の破壊に繋がることもあります。ウクライナや中東のガザでは多くの人命が奪われ傷付けられ、故郷が破壊され続けられています。これらは人間によるものなので、防ぐことができるはずで、日本においても、一層、平和について考えなければなりません。

受賞者のみなさん、今後も100年後に残したい未来遺産という捉え方で、さらに多くのたからものを見付けてください。みなさんの心をさらに豊かに、そして強くしてくれます。

(要旨抜粋)



【来賓挨拶】

「地域の良さを再認識
取り戻す能登の景観を願う」

浜松市長代理 副市長 山名 裕 氏

皆さんの作品には、地域の特徴的な風景や文化が分かりやすく描かれていました。市民の方々に、作者である皆さんの気持ちが、しっかりと伝わっていると思います。そして、地域の良さを再認識することができたと思います。

私たちの地域には、多くの魅力があります。先日の能登半島の地震では、多くの人命が奪われました。これまで築かれてきた街並みや美しい海岸も一瞬に失いました。被災された皆さんに心からお見舞い申し上げるとともに、その地域の子供たちが、これからの未来にしっかり残していくことができるような景観を取り戻せるよう願っています。

(要旨抜粋)

「地域を知り 好きになり
将来の活躍を期待」

浜松市教育長 宮崎 正 氏

限られたスペースに描かれた絵やコメントから皆さんの思いが伝わってきました。改めて浜松や湖西の地域には素晴らしく誇れるものがあると感じました。日ごろ、何気なく存在する原風景の中に「その場所の歴史」「家族をはじめとする人々の温かさ」など、見方によっていろいろな地域の魅力が伝わってくる作品ばかりでした。

この作品展に参加したことがよい機会になったと感じていただければ幸いです。今後もより良いものを感じ取る心を大切にして、素直な感性を磨いて欲しいと思います。

また、自分以外の方が大切していることも知ってほしいと思います。浜松・湖西という地域をもっともっと知り、大いに好きになって、将来、この地域での活躍を期待しています。

(要旨抜粋)





浜松市長賞

佐藤千都さん 鶴見琥珀さん

審査講評 柴本峰明氏

「輝け！ひまわり」

明るく元気な印象が強い。絵の具の塗り重ねによる力強さが伝わる。入道雲や展望台の配置も良く、明日への希望を感じる。

「守っているクスノキ」

下から見上げる構図が神聖さを感じる。筆を縦に使用って木肌のゴツゴツした重厚さ。筆を丸い点として用いた多色の葉からの木漏れ日と枝のうねりから生命力を感じる。



2023年度「私のまちのたからもの」受賞者

賞	学校名	学年	氏名	題名
浜松市長賞	浜松市立佐鳴台中学校	2	佐藤 千都	輝け！ひまわり
浜松市長賞	浜松市立気賀小学校	6	鶴見 琥珀	守っているクスノキ
静岡県教育長賞	浜松市立南部中学校	3	志賀 美月	浜松フラワーパーク
静岡県教育長賞	浜松市立城北小学校	6	田中 結椛	浜松祭りに輝く屋台
浜松市教育長賞	浜松市立丸塚中学校	1	清水俐衣奈	歴史のある佐鳴湖の風景
浜松市教育長賞	浜松市立上島小学校	4	山中 桜助	浜松まつり
浜松商工会議所会頭賞	浜松市立北部中学校	1	二宮優衣奈	思い出の神社
浜松商工会議所会頭賞	浜松市立泉小学校	5	石垣 結菜	浜松城
学校賞	浜松市立八幡中学校		校長 山口俊二	
浜松ユネスコ協会会長賞	浜松市立八幡中学校	1	大津 花笑	八幡宮
浜松ユネスコ協会会長賞	浜松市立篠原小学校	6	漆畑 陽	佐鳴湖
静岡新聞社・静岡放送賞	浜松市立八幡中学校	2	殿村 桃花	浜松球場の夏
静岡新聞社・静岡放送賞	浜松市立泉小学校	6	原田 莉矩	ねこのいる公園
中日新聞東海本社賞	浜松市立八幡中学校	3	足立 美樹	神明宮
中日新聞東海本社賞	浜松市立城北小学校	4	清水 皓介	茶園ひろめ地蔵

★全受賞作品は、浜松ユネスコ協会HPにて御覧ください。

(敬称略)

<https://www.unesco.or.jp/hamamatsu/>

内科・消化器科

西脇 医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育／地域唯一の女子教育／新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

第4回 科学教室「身の回りの化学」 ～ 生活と化学の結びつき ～

9月2日(土) 於：浜松科学館

全体会では、周期表を使って「元素」や「原子」について学びました。元素と原子はよく混同されますが、「元素」は、物質をつくる一番基本的な成分です。「原子」は、物質を構成する最小の基本粒子です。原子一つの大きさは、平均的に約1000万分の1ミリメートルと言われます。とても目で見えるものではない小ささです。私たちの身の回りの物は、元素の組み合わせにより様々な種類の物質が生まれ、途方もない量が重なって形を作っているということになります。



実験「酸性・アルカリ性の洗剤」

洗剤には「酸性洗剤」「中性洗剤」「塩素系洗剤」があります。「酸性洗剤」と「塩素系洗剤」を混ぜると有毒な塩素ガスを発生するため、「混ぜるな危険」の表示がされています。トイレ用の「酸性洗剤」は尿石・黄ばみ用、「塩素系洗剤（アルカリ性）」は黒ずみ・カビ用として売られているため、同時に使わないように注意が必要です。実験の際には、そういった身近な生活に結びついた話をしながら行いました。

(石塚稚人)

第5回 科学教室「天竜川と岩石」 ～ フィールドワークだからこそ 伝わること ～

10月14日(土) 於：天竜川河川敷(二俣町)



まず、採集する5つの「堆積岩」の成り立ちと特徴、次になぜ海底に堆積してできた岩石がこの場所にあるのかを説明します。堆積岩は重い海洋プレートが軽い大陸プレートの下に沈み込む際に大陸プレートに擦り付けられました。それが隆起したため、現在の南アルプスにあり

ます。そして、風雨によって削られ、天竜川によって運ばれ、今、子供たちの足元にあるのです。それはフィールドワークだからこそ、リアルに子供たちに伝えられると考えています。

続いて、1つの「火成岩」、4つの「変成岩」についても学び、10種類の岩石に興味をもったところで採集を始めました。初めのうちは偶然でも採集できるのですが、岩石を絞って探すようになると簡単には見つからないものです。一心不乱に河原を歩き回ってこそ、少しずつ標本箱が埋まっていく喜びと岩石の世界の奥深さを味わえると思います。

毎年同じ時期に同じ場所で活動をしていると、天竜川の河原の経年変化がよくわかります。今年は例年より天竜川が南に寄って流れているため、河原が狭くなっていました。姿を変える河原を見るにつけ、水の力強さ、自然の雄大さを感じずにはられません。（竹内孝夫）

第6回 科学教室「秋の自然観察」

～ 子供たちの観察眼に感心 ～

11月3日(金) 於：佐鳴湖公園



この日の浜松市の最高気温は25℃の夏日で、例年よりも暑く感じました。木の実の成熟は種類によって異なります。コナラやマテバシイは早く、アラカシやウバメガシは遅いです。しかし、今年は暑さの影響か、なり年の影響かは分かりませんが、その差が顕著な気がしました。

今年も8種類のどんぐりを「堅果」「殻斗」「葉」のセットで集めました。私が担当したグループでは、最後にアラカシとシラカシを比べて、みんなで違いを観察しました。すると、「シラカシの葉の方が細い」「シラカシの葉のギザギザ（鋸歯）は先から根元までであるけど、アラカシは途中までしかない」「殻斗はシラカシの方が長い（深い）」といった声が聞かれました。さすが科学教室の子たちの観察眼は鋭いものだと感心しました。私も子供たちのように、毎年少しずつでも新しいことを覚えて学び続けたいと思いました。

（石塚稚人）

第7回 科学教室「宇宙への挑戦」

～ 本物を自分の目でみる価値と感動 ～

12月16・23日(土) 於：浜松市天文台

12月16日はあいにくの天候でしたが、12月23日は星空を楽しむことができました。冬の星座の1等星を見付け、前半の講座で紹介された天体を自分の目で確かめることができました。冬の大三角を結び、実際の星空は自分が思っていたよりも広がったと感じている子



がいました。これは、プラネタリウムや図鑑だけでは気が付けません。

望遠鏡や双眼鏡を使って見える宇宙にも感動の声が上がりました。土星、木星、月、天王星、M42オリオン大星雲、M45プレアデス星団（すばる）などを見ることができました。本物を自分の目で見る価値ある活動になりました。

浜松市天文台では、毎週土曜日に「星空観望会」を行っています。季節や条件によって見える星の様子は様々です。浜松市天文台を利用いただき、春や夏の「宇宙へのとびら」も開いてください。

（浜松市天文台指導主事：喜澤俊輔）



第8回 科学教室「ラジオをつくろう」 ～ 見えない電波をキャッチ ～

1月27日(土) 於：浜松科学館

「電波の不思議」と題して、ラジオ製作をしました。2部屋に分かれて活動に入りましたが、家にラジオがあるという家庭は3割程度といったところでした。始める前の子供と話をすると、「金属を溶かしてくっつけるの?」「こんなんでも音が聞こえるの?」と半信半疑の様子でした。

初めはおそるおそる作業をしていた子供たちも、徐々に慣れてきて、きれいなはんだ付けができるようになりました。

製作活動が終盤に差し掛かると、あちらこちらからラジオの音と喜びの声が聞こえてくるのと同時に、「自分も早く完成させて音を聞きたい。」という子供たちの熱い思いがひしひしと伝わってきました。



完成したときの子供たちの嬉しそうな顔、自分の力で課題を解決しようと頑張る姿に、スタッフも励まされました。（伊熊芳基）

ISO9001/14001 [品質/環境]・ISO27001 [情報セキュリティ] 認証取得

 **中部印刷株式会社**

本社・工場 TEL:053-441-2431 (代) FAX:053-441-7612

<https://www.chu-bu.co.jp/>

第2回 親子公園探検隊(真夏の自然 in 佐鳴湖公園) ～ 夏の自然を満喫!昆虫との出会いに大興奮 ～

5月20日(土) 於：佐鳴湖公園



スタッフが用意したクワガタムシやカブトムシ、スズムシ、公園に生息しているアカボシゴマダラの幼虫、ウチワヤンマ、タマムシなど、普段の生活では接することのできない昆虫と出会いました。子供たちは、こうした生き物と出会う度に興奮し、歓声を上げていました。さらに、クサギやヘクソカズラ、クスノキなどの植物の匂いをかいだり、ウラジロのグライダーを飛ばしたりしながら、五感を通した自然体験を楽しむことができました。

また、今回は高校生ボランティア2人も初参加し、子供たちと一緒に夏の自然を満喫していました。

親子公園探検隊は、自然に触れあいながら学び、楽しむ貴重な機会です。参加した保護者は、自然の中での経験が、子供たちの成長や学びに大きく寄与したと感じたようです。この活動が、子供たちの好奇心を育み、学校にはない学びの場となっていることを再認識しました。

<参加者：25家族 70人> (袴田正義)



第3回 親子公園探検隊(秋の自然 in 佐鳴湖公園) ～ どのどんぐりが好きですか? ～

11月11日(土) 於：佐鳴湖公園



「どんぐり」と呼ばれている木の実には、多くの種類があります。初めに、その見分け方や特徴について教わりました。教わったポイントを親子で確かめ合いながら楽しく拾いました。「本当だ、殻斗の模様が違う。」ブナ系とカシ系、シイの実の区別ができました。

「擦ったらチョコレート色になった。」磨くとピカピカに輝くシリブカガシは特に人気です。

「どのどんぐりが好きですか?」何だか宮沢賢治

の「どんぐりと山猫」の話を思い浮かべてしまいました。

帰りにはトチの実やオニグルミ、ヒメグルミなどのプレゼントがありました。多くの種類の「どんぐり」に触れながら、親子で楽しそうな会話がはずんでいました。 (浅野不二夫)

第4回 親子公園探検隊(真冬の自然 in 佐鳴湖公園) ～ 春をまつ 佐鳴湖のいきものたち ～

2月3日(土) 於：佐鳴湖公園

春を待つ木々たちの冬芽の観察から探検を始めました。寒い北風に揺れる枝には、小さな芽がいっぱいついています。芽の中には、春に芽吹く葉や花が準備されています。重ね着スタイルのサクラ、ベタベタ感があるトチノキ、フワフワしているモクレンなど、それぞれ個性があります。

林の中では小鳥たちがさえずっていました。「松ぼっくりの種があるよ。おいしいよ。」「危険だよ。みんな集合。気をつけて。」など、メジロ・シジュウカラ・ヤマガラなどの会話を想像するのも楽しいです。

湖畔では杭の上でミサゴが食事中でした。

オオバン・カルガモ・マガモなどを含め、餌の捕り方の話に興味津々でした。サギの仲間の見分けにも挑戦しました。ニホンアカガエルの卵塊とも出合いました。春を待つ小さな卵。じっくり観察することができました。



<参加者：19家族 46人> (鳥井みのり)

歴史のある佐鳴湖の風景 (第14回「私のまちのたからもの」展 浜松市教育長賞)



私は時々佐鳴湖へお散歩に行きます。今年は大河ドラマで徳川家康が話題になっていますが、佐鳴湖も家康と深いつながりがあることを知りませんでした。散歩中、時々、佐鳴湖からいやなにおいがすることがあります。昔はもっとひどかったようです。こんなにすばらしい歴史ある湖が汚いのはさみしいです。もっともときれいになって浜松の人がほこれる湖にしたいです。(浜松市立丸塚中学校1年 清水俐衣奈)

あなたも一緒に
会員募集
問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数 (2024.3.2現在)

賛助	法人	維持	理事
30	1	3	39
普通	学生	合計	
31	0	104	



※再生紙を使用しています。